

## 読書活動

### 月1回の読み聞かせ

- ・自分では、あまり読んだことのない本を扱うことで読書の広がりが見られた。

### 読書旬間

- ・委員会の児童による読み聞かせにより、低学年児童も本に親しむことができ、委員会の児童は、相手を意識して読もうとする力がついた。

### 本の紹介ポスターや紹介ポップ作り

- ・相手に紹介するためという目的をもちながら書くことができた。

### 読書環境の充実

- ・教科書に紹介されている本や複本を充実させ、授業で活用することができた。

## 書く活動

### ことばらんど（児童の作品）

- ・他学年の児童の作品を鑑賞することが刺激となり、表現したいという意欲を高めることにつながった。俳句が朝日小学生新聞に掲載されるなど、児童全体の表現力が向上した。
- ・だじゃれやアクロスティックなどの言葉遊びの活動に低学年から取り組んだ。日常的に言葉遊びを楽しむことができる環境を整えたことで、想像力がついた。

### 学級指導での日常的な書く活動

- ・低学年は「三行日記」、高学年は「五・七・五」で毎日の振り返りを書くことで、自分の考えや思いを短い言葉で適確に表現するという力がついた。

## 特別活動

### プロジェクトアドベンチャー

- ・児童同士が試行錯誤しながら課題を解決し、達成感を共有することでコミュニケーション能力や感性が豊かになった。
- ・ピーイングをクラスの目標作りと振り返りに活用することで意識を言語化することが定着した。

### 縦割り班活動の充実

- ・6年生は、縦割り班のリーダーとして、集会や行事などの計画・運営を行うことで、相手意識をもって、言葉を選んで伝えるようになった。
- ・全校遠足での体験を振り返りカードに書いたことで、共有した楽しさや感謝の気持ちを伝え合うことができた。

### 【さらに潜在を

### 豊かにするために】

- ・アニメーションの指導技術の向上と充実  
継続的に指導できるようにマニュアルや年間計画を作成して充実を図る。
- ・ことばらんどのさらなる充実  
低学年が親しんでいるダジャレから、詩などもっといろいろな表現技法に広げていくとともに、児童が自主的に作品を投稿できるようにしていきたい。

### 【外部講師から学んだこと】

豊かな感性を広げていくための  
さまざまな体験の大切さ  
クリエイティブな思考の大切さ

# 研究の成果

## 成果

- ・ 具体的な事や日常生活に関する事などを題材として取り上げたり、体験を重視したりしたことが「潜在」を豊かにし、経験を想起しながら思考することにつながった。
- ・ 児童の多様な考えが出そうな課題を設定したことで、言葉や式、絵、図、ジェスチャーといった様々な表現方法で、友達に伝えようとする態度が育った。
- ・ 共通体験の時間を十分に確保したことで、相手の意見の根拠や、思考の流れを確実に理解して話し合い活動等に取り組むことができた。
- ・ 相手意識・目的意識を明確にしたことで、相手を意識した表現方法ができるようになった。
- ・ 付箋やイメージマップなどを工夫することにより、思考をする際のスキルが身に付いてきた。

「つ北授業モデル」潜在を意識した授業改善 → 教師の変容

## 教師の働きかけが、授業を変える。

働きかけのポイント・・・問題解決的な授業展開の中で

- 1** ロジカルな思考  
クリエイティブな思考  どちらの思考を促すのかを意識して、  
そのための手立てを工夫するようになった。
- 2** 潜在を意識した授業
  - 共通体験の内容や方法、授業での位置付け等について考えるようになった。共通体験が児童同士の学び合いにつながり、思考を促すことができた。
  - 児童のつぶやきや、学習感想などを記録することに努めたり、学習の経過を掲示して残したりした。
  - 既習学習や体験を想起させるような発問の質の向上、教材や環境の工夫をするようになった。
- 3** 課題との出会い 課題の設定や提示方法を工夫することで、児童が「やりたい。」と思えるような場面設定に心がけた。

## 今後の課題

- ・ 体験や既習事項を想起させるような課題設定や提示の工夫をさらにすすめる。
- ・ 話し合い活動の前に、自分の考えをしっかりともつために考える時間を十分に確保することが必要である。
- ・ 伝えたいという思いはあるが、まだまだ語彙不足であったり、体験が言葉と結びついていなかったりするために、自分の思いをしっかりと伝えられない児童が見られる。体験を増やし、言語化する機会を今後多く設定していく。
- ・ 課題設定や教師の投げかけをさらに工夫し、「自分の考えをもち、人に伝える」という活動を繰り返すことが大切である。